

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第 1 回 相模原市下水道事業審議会部会		
事務局 (担当課)		下水道経営課 電話 0 4 2 - 7 0 7 - 1 8 4 0 (直通)		
開催日時		令和 7 年 2 月 1 2 日 (水)		
出席者	委員	4 人 (別紙のとおり)		
	その他	0 人		
	事務局	7 人 (下水道経営課長、下水道料金課長 他 5 名)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 部会長の選出について (2) 下水道使用料の見直しについて 3 その他		

議題（１）部会長の選出について

相模原市下水道事業審議会規則第7条第3項の規定に基づき、互選により広田委員を部会長として決定した。

議題（２）下水道使用料の見直しについて

事務局から「資料 下水道使用料の見直しについて」及び「参考資料 政令市等の基本水量と基本使用料」に基づいて説明が行われた。令和7年7月に開催予定の令和7年度第1回下水道事業審議会の説明資料として、当該資料を基に、一部を追加・修正し使用することについて、了承された。具体的な追加・修正内容は次のとおり。

- ・資料構成の変更（7ページ「将来予測される課題」を、6ページ「経営の現状」に移動）
- ・資料4ページと6ページに、パーセント表記に加えて金額を併記
- ・資料6ページに経営指標の用語説明を追加
- ・資料8ページに、増加する維持管理費を具体的に例示
- ・市が収支均衡を維持するために行っている対策の例示
- ・将来的に使用料改定が必要になる説明の追加（財政収支見通しの追加）

主な意見

（青山委員）

6ページの経営指標のグラフは、審議会の委員を含めた多くの方が興味を持つ部分だと考える。このページだけを見ると、経常収支比率や経費回収率が100%を上回っており、現時点においては下水道企業会計が健全な経営状態であることが分かることから、読み手に、使用料を改定する必要がないという印象を抱かせてしまう。仮に、下水道使用料を改定することとする場合は、データの見せ方に工夫が必要だと感じた。

また、部会で議論した内容は、どのようなタイミングで審議会へ諮るのか。

（事務局）

ご指摘いただいた通り、経営指標は大勢の方からの関心が強い部分だと認識している。これまでの下水道使用料の見直し方法は、直近3年間に行う事業に対して、必要な使用料を試算し改定の判断を行うというものであったが、この方法では、急激な使用料の変動や、頻繁に使用料を見直さなければならないといった課題が生じる。この部会では、投資計画や経営戦略等の材料を使いながら、もっと中長期的な視点で下水道使用料の改定について議論できればと考える。

部会は今回を含めて最低4回の開催を予定しており、各部会で議論した内容を都度、審議会へ諮る予定である。

（石田委員）

答申の中で、基本水量制を含めた下水道使用料体系の抜本的な見直しとあるが、その背景について教示いただきたい。

(事務局)

一人暮らし世帯の増加や節水意識の向上など、水の使い方が変化しており、基本水量を使わない世帯への配慮が必要と考えたことから、基本水量のあり方についても検討することになった。

(碓井委員)

4ページと6ページの資料はパーセントで表記しているが、金額等の記載がないため説得力に欠ける印象であった。金額的な面からのアプローチがあった方が分かりやすいと感じる。

また、下水道使用料はずっと据え置きとなっていたが、下水道使用料改定のための部会の設置はいつぶりか、ご教示いただきたい。

(事務局)

平成24年度に設置している。その時のテーマは、使用料改定と収支均衡策の検討であった。

(広田部会長)

前半部分で、どの資料を審議会に上げるか決まっているか。

(事務局)

基本的にはこの資料を基に、経営指標の用語説明を加えるなど、分かりやすい資料に修正したいと考えている。

(青山委員)

今回のテーマでは、改定率の上げ幅についての議論と、仕組みそのものを変えるという二つの因子があるため、内容が複雑で難しい。シミュレーションを行い、将来的な収入不足を未然に防ぐために使用料改定について検討するという説明を加えることで、分かりやすい資料になると考える。

(広田部会長)

足りない費用を補填するために下水道使用料を値上げする場合、どの程度までシミュレーションすることが可能か。

(事務局)

令和7年中には、20年から30年程度を対象として、財政収支を試算する予定である。その後、基本水量制を廃止した上でどれだけの財源が確保できるか、改定率をどのランクに多く設定することが財源確保につながるか等、複数パターンのシミュレーションを行う想定である。

(広田部会長)

今後、費用が伸び収入が減っていく可能性が高いことを、最初の議論で委員の皆様にお伝えしないと、議論が何故値上げするのかという話に終始することが懸念される。

(事務局)

使用料対象経費の算定というテーマを3回目の部会に持ってきた理由は、12月にならないと財政収支の試算が出ないからである。前半で示せる内容としては、第2次相模原市下水道ビジョン(改定版)の経営戦略で既に示している令和11年度までの数値となる。大きな使用料改定を頻繁にやらないような長期的な視点に重きを置くのであれば、材料が揃う3回目以降でないと、検討が難しい状況である。

(広田部会長)

10ページの将来予測される課題として維持管理費の増加とあるが、ここには今後、新たに必要な公共下水道や高度処理型浄化槽の費用は含まれていないか。また、の部分で予測の判断材料としては使わないのか。

(事務局)

新たな設備投資にかかる費用は4ページの減価償却費の中に含まれている。

(碓井委員)

4ページで維持管理費の他に減価償却費があるが、10ページに記載している維持管理費は減価償却費を含めた経費の増加ということで捉えれば良いか。

(事務局)

10ページは施設の維持管理にかかる費用のことで減価償却費は含まれていない。

(広田部会長)

一度整理させていただくと、基本水量制と基本使用料は別の言葉で、今、見直そうとしているのは基本水量制の必要性ということか。基本水量制を廃止した場合、使用した分の従量使用料が発生するということか。

(事務局)

基本使用料は使用水量が0 m³でも発生する。基本使用料に加え、1 m³から使用した水量に応じて従量使用料が発生するということである。

(石田委員)

スケジュール的に、年度の後半でないと財政シミュレーションが出ないという部分は仕方ないが、基本水量制を先に議論し廃止とした場合、少量使用者の使用料値下がり分の財源も使用料改定で確保するという印象にならないか。結局は全員値上げということにならないか。

(事務局)

お見込みのとおり、基本水量制の廃止を単独で実施すると収入の減少につながってしまう。将来的に使用料改定は必ず必要になるため、その際の値上げ抑制策として基本水量制の廃止を実施することで、節水努力が使用料に反映されるようになることから、値上げは仕方ないという印象になると考えている。

(広田部会長)

個人の感覚となるが、今回の審議会では、ライフスタイルと水需要の変化などの前提がある中で、まず、現状、このままでいくと下水道経営に大きな不安があること、その将来に向けて使用料の値上げの検討をしたいことをお伝えする。その過程のなかで、複雑化している基本水量制を改定するとした方が、市民に向けての真摯な説明になると感じる。今後、人口減少も見込まれ負担が大きくなるという説明を丁寧に行うプロセスは必要である。

(碓井委員)

使用者としても、物価の上昇に伴う値上げは仕方ないと感じる部分である。市側でも既存の経費を見直す支出削減策など考えはあるか。

(事務局)

今後、施設の維持修繕に係る経費が大きく増加すると見込んでおり、支出を少しでも抑えるため、第2次相模原市下水道ビジョン（改定版）にも掲げている包括的民間委託の導入を予定している。

(広田部会長)

8ページの維持管理費という言葉について、内訳を具体的に例示して説明した方が良い。

(石田委員)

下水道事業審議会の委員として1年目の方が多い中では、第2次相模原市下水道ビジョン（改定版）の内容が伝わり難いことも想定される。市が収支均衡を維持するために行っている対策と使用料改定の必要性を併せて説明するなど、表現の工夫が必要である。

(広田部会長)

やむを得ず、大幅な改定を実施した自治体を例示できると分かりやすいのではないか。

(石田委員)

仮に基本水量制を廃止した場合、金額の適正な取り方について検討することになると思う。経済学でも、固定費部分を基本使用料金とし、変動費部分を従量使用料として徴収するといった考えは、あるべき姿として議論されるが、実際にこれを行った場合、とても高額な基本使用料を徴収することになると考える。現在の基本使用料で固定費をどのくらい賄えているのか。

(事務局)

現在は、固定費の3割程度を基本使用料で賄っているが、固定費をすべて基本使用料で徴収することは現実的ではないため、割合の見直しを行うことを検討したい。

(広田部会長)

次回の部会で議論の参考とするため、現在の使用料体系をどのように決めたか示していただきたい。

以 上

相模原市下水道事業審議会部会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	あおやま みつお 青山 光男	公益財団法人 神奈川県下水道公社		出席
2	いしだ みつなり 石田 三成	東洋大学 経済学部 准教授		出席
3	ひろた はるあき 広田 啓朗	武蔵大学 経済学部 教授	部会長	出席
4	うすい あつこ 碓井 敦子	碓井公認会計士事務所		出席